

3.11 は終わらない:

15 年後 自主避難者のいま

2026 年 3 月 10 日(火)19 時～

東日本大震災から 15 年がたとうとしています。

「復興が進んだ」と言われる一方で、福島第一原発事故により生活圏に放射能汚染をばらまかれ、避難を余儀なくされた「避難民」の苦勞と苦惱は今も続いています。

国策として原発を推進してきた結果の大事故であるにもかかわらず、誰も責任を取らず、その負担が避難民に押しつけられている現状があります。

こうした状況の責任を問い、明らかにするため、全国各地で原発事故の避難民が国と東京電力を相手取り裁判を続けています。

今回の企画では、実際に避難を決断した国内避難民のお二人をお迎えし、避難に至るまでの葛藤や現在も続く課題など、避難の実相を語っていただきます。

また、国の責任を問う裁判の意味・意義についてもお話しいたさき、

原子力発電と事故被害の本質、そして原発推進政策が地域住民や女性に与える影響について共に考える時間としたいと思います。

話題提供:

森松明希子(自主避難者、原発賠償関西訴訟原告団代表)

蝦名宇摩(自主避難者、せとうち交流キャンプ(保養)主催者)

コメンテーター:

山根純佳(実践女子大教員)

山秋真(ルポライター)

日時:2026 年 3 月 10 日(火)19 時～21 時

会場:zoom にて開催

参加費無料:下記から要事前申し込み

<https://owaranai.peatix.com/>

主催:

認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク

info-site@wan.or.jp (担当 古久保)